

# 松支図書館だより 11月号

平成27年11月1日

熊本県立松橋支援学校図書館発行

霜月。霜が降りる「霜降月」を略したというのが一般的です。10月に出雲に出かけた神様が帰る「神帰月」という異称もあります。朝夕の気温が大きく下がり、肌寒さを感じる頃。紅葉も見頃をむかえます。11月7日に本校では、学校公開日として授業参観や公開発表会があります。本年度は体育館改修工事のため例年行っている“きらり祭”が出来なくなりました。小学部、中学部、高等部1組、2組では、ホットほっとルームで公開発表会があります。高等部専門学科では、通常授業参観や作業製品販売もあります。児童生徒のみなさんには、気温の変化の激しいこの時期一人一人が、体調管理に気をつけ頑張してほしいものです。

## 《Malcom, Crang 先生による読みきかせ》

10月13日（火）の5限目に小学部のみなさんにマルコム先生による読み聞かせを行いました。はじめに英語でマルコム先生が自己紹介をし、それに続き小学部のみなさんも自分の名前を英語でいうことが出来ました。英語の歌もみんなで楽しく合唱しました。



それから大型絵本を使って「はらぺこあおむし」を聞きました。小学部ではこの絵本はこどもたちになじみ深く、興味をもって静かに聞いていました。2冊目は「三匹のこぶた」の絵本でした。マルコム先生の流暢な英語に、初めての経験でしたがみんなニコニコ笑顔で最後まで聞くことができました。

## ☆☆☆☆新刊本紹介☆☆☆☆

### 【跳びはねる思考】東田直樹／著 イースト・プレス

僕は22歳の自閉症者です。人と会話することができません。僕の口から出る言葉は、奇声や雄叫び、意味のないひとりごとです。普段している「こだわり行動」や跳びはねる姿からは、僕がこんな文章を書くとは、誰にも想像できないでしょう—本文より



### 【いぬのおしりのだいじけん】ベントリ, ピーター／文 松岡芽衣／絵 灰島かり／訳 ほるぷ出版

犬たちはどうして道で出会うと、おしりをかぎあうのでしょうか？それはね、せかいじゅうの犬が集まったパーティの夜に起こった、ある事件がはじまりなのです。犬のおしりの秘密の種あかし、はじまり、はじまり。ユーモアたっぷり、奇想天外のおはなし。



☆☆☆ リレーエッセイNO44 ☆☆☆

小学部 中川広子

幼小時代の私は、とにかく読書とは無縁な環境にいました。(学校には小さいながらも図書館はあったので、無縁というよりむしろ無関心だったのでしょうが……。) 周りを海と山に囲まれた小さな田舎町に住んでいたのも、年齢や性別関係なく、近所の子どもたちと海や川で遊んだり山を駆け回ったりと、毎日暗くなるまで外で思いっきり遊ぶという日々を過ごしていました。

私が読書に目覚めたのは高校生の時でしょうか……。友達の紹介で三浦綾子さんの「道ありき」を読んだのがきっかけでした。三浦綾子さんの回顧録で、17歳で小学校の教員になるも教員生活に挫折し、その後13年間にも及ぶ闘病生活の中での肉体的苦痛や経済的困窮を経て、最後はキリスト教を信仰するようになるという内容が書かれていました。三浦さんの生き方、哲学、道、自己理解、信念!! それらがとても心に響き、その後『氷点』『塩狩峠』『銃口』『病めるときも』など三浦綾子さんの本を読みあさった記憶があります。

大人になった今では、小説、自己啓発本、気に入った映画やドラマのノベライズ本、エッセイ本等々、様々なジャンルの本を読むようになりました。私の場合、本屋に立ち寄ってしまうと興味を持った本を片っ端から買い込む癖があり、まだ読んでいない本がたくさん自宅の書棚で眠っています。(買って安心するタイプのような感じです……。)

そんな私が2ヶ月程前でしょうか、書店で目を惹き購入した本があります。それが『100万分の1回のねこ』です。佐野洋子さんの名作『100万回生きたねこ』という絵本は、みなさんも1度は読んだことがあるのではないのでしょうか? もちろん私も読みました。【トラ猫は100万回死んで、100万回生きたけど、1回も泣かなかった。なぜなら誰も好きにならなかったから。ところが、トラ猫は白い猫に初めて恋をし、家庭を築く。やがて白い猫が死ぬと、トラ猫は初めて泣き、トラ猫はもう二度と生き返らなかった。】という内容の絵本です。『100万回分の1回のねこ』は、この絵本へのトリビュート短篇集です。角田光代や江國香織、川上弘美、谷川俊太郎、広瀬弦など13人の人気作家がこの絵本に触発された小説を書いています。作品の内容は、作家によって全く違いますが、どの小説もこの絵本への熱い思いが込められています。短編小説から詩、童話風の話まであり、絵本とは違うおもしろさで人気作家の作品が一同に読めるととても贅沢な本です。この作品を読んでから、『100万回生きたねこ』の絵本を改めて読んでみたのですが、子どもの頃に読んだ時の気持ちとまた違った思いが湧き上がって感動しました。さすが、読みつがれて36年のベストセラー絵本!! 不思議な絵本ですね。



ちなみに……。我が家の書棚で順番待ちをしている本は、武田双雲著『ポジティブの教科書』、茂木健一郎著『「すぐやる脳」のつくり方』、泉谷閑示著『普通がいいという病』、下重暁子著『家族という病』、渡辺和子著『面倒だから、しよう』等々、まだ10冊以上あります!! 早く読まなければ♪♪

※トリビュート (tribute) :感謝・賞賛・尊敬などの気持ちを表すしるし